

福井県・城下町再生に取り組む大野市

～名水の町 観光と交流で～

日本不動産研究所 福井支所
不動産鑑定士 宮岡 広英

【大野市の概要】

大野市は福井県東部に位置し、その面積は県内最大であり、東京 23 区をも上回る。中心市街地は市の西部に存し、中心市街地以东の岐阜県との県境までは大半が山林であり、その面積割合は市域の約 87%を占める。

現在の大野市中心市街地は、今から約 430 年前、織田信長の家臣、金森長近が大野に入り、大野盆地が見渡せる亀山に築城し、その東麓に碁盤の目の城下町を造り始めたのが起りである。今日においても、当時の大野城石垣（写真①）や碁盤の目の街割り（写真②）が残っており、越前の小京都として知られている。



「写真①：築城当時の石垣が残る大野城」



「写真②：碁盤目状の街割り」

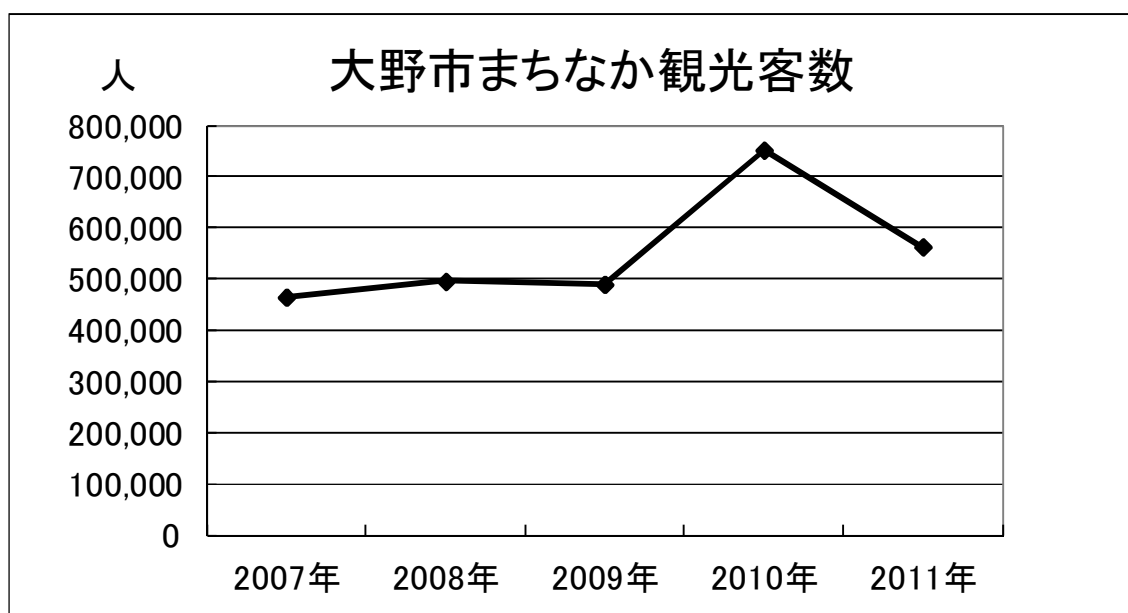
【中心市街地活性化】

大野市においても、他の地方都市と同様に、人口減少・高齢化・既存商店街の衰退が進行しているため、大野市では「まちなか観光による交流人口の増加」・「商店街を中心としたまちなか生活の充実」を基本方針とした、「大野市中心市街地活性化基本計画」を平成 20(’08)年に策定し、官民協力の下、城下町の再生に取り組んでいる。

当該事業の一環として、名産・特産品・農作物の販売所、観光案内所等を兼ねた、城下町観光の拠点となる「越前おおの結ステーション」(写真③)が平成 22(’10)年にオープンしている。これに伴い、まちなか観光客数も増加傾向にある。平成 22(’10)年については、大野城築城 430 年祭に係る各種イベント等の影響で一時的に大幅増加しているが、中期的に見ても増加傾向が視える。



「写真③：観光拠点『越前おおの結ステーション』」



「福井県観光客入込数（推計）」出典：福井県観光営業部観光振興課

【水の町】

また、大野市は名水の町としても知られている。市内全域が豪雪地帯であり、森林も多いことから良質な地下水が豊富で、市街地には名水百選にも選ばれている「御清水」(写真④)をはじめとする湧水地をいくつもみることができる。これを利用した地酒、味噌、醤油といった醸造業が多く見受けられ、湧水地とあわせて観光スポットの一つとなっている。

水がきれいで里山等の自然環境に恵まれることから農業が盛んで、県内では良質な米の産地としても有名である。山間部の比較的耕作条件の厳しい田等が多いにも係わらず、昨今問題になっている耕作放棄地の割合は約 0.56% (福井県全体：約 3.09%) であり、県内において飛び抜けて低い水準にある。(平成 22(’10)年世界農林業センサス)



「写真④：名水 100 選の『御清水』」

【今後の発展について】

現在、福井市と長野県松本市を結ぶ「中部縦貫道自動車道」が事業中（一部供用開始区間を含む）であり、中心市街地から少し離れた箇所において、大野インターチェンジが平成 24(’12)年度中に開通予定である。当該道路の開通により、福井県内及び東海地方からのアクセスが大幅に向上することから、地域間交流・観光客数の増加、企業立地による地域経済の発展等がより一層期待される。